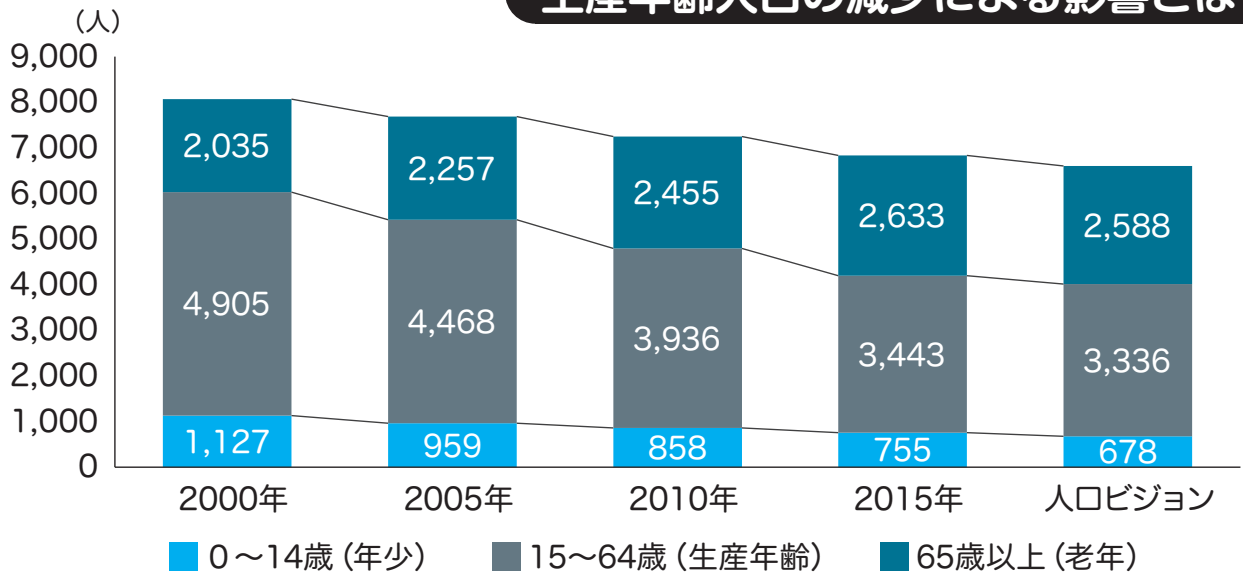


生産年齢人口の減少による影響とは



2000年から2015年までの国勢調査データから人口減少の年齢構成を見ると、大きく減少しているのが年少人口（33%減）、次に生産年齢人口（30%減）となり、老年人口は増加しているが2020年の国勢調査では減少に転じると想定されています。

生産年齢人口の減少は、町の活性化に大きな影響を与えていると言われています。新十津川町の年齢人口構成を見ますと、年少人口も減少していることから、生産年齢人口の減少は今後さらに進むと考えられます。

その影響とは…

【地域経済への影響】

- 商店街の衰退：小売業、サービス業の経営維持が困難（買い物等に影響）
- 自治体税収の減少：収入減少による税収の減少（公共サービスの維持等に影響）

【地域社会への影響】

- 地域ネットワークの衰退：人のつながりが希薄（住民生活の維持等に影響）
- 交通インフラの衰退：交通手段の減少（高齢者等の移動手段に影響）



人口減少の大きな課題は、労働人口の減少による地域経済の衰退であり、そのことが地方自治体の維持に大きな影響を与えます。

生産年齢人口が減少するなか、本町が行うべき町づくりはいかに労働人口を増やし、地域経済を維持、向上させるかが大切であると感じます。

定住促進による「住む場所の新十津川町」と合わせて「働く場所の新十津川町」をどう進めていくか。後編は、町内商工業の現状に焦点をあて、町が取り組むべき方向性について特集します。

「働く場の推進が重要」